



年 頭 の 辭

東京大學生産技術研究所長 瀬 藤 象 二

昭和 25 年の初頭に際し、我が生産技術研究所として過ぎ去つた年の出来事に対する回顧と新しい年に対する希望について語り、併せて「生産研究」の讀者諸君と同學同好の誼みによる連契を深めるよすがとしたい。

我々の研究所が設置せられてから 7 カ月を経た。昨年 11 月 12 日、13 日兩日に催された開所式並びに開所披露において所員の研究成果 48 件の展示會を行つたが、その中には我が國のみならず世界の學術界にも新しい試みとして特筆に値するものが相當數含まれていた。これ等の研究成果は既に實用に供せられているものもあり、或は又近き將來に實際に應用せられようとしているものもある。

我々が、研究所の使命として、その達成に力を盡すことを決意したところのものは、現下の我が日本として、何としてでも達成しなければならぬ事柄であると同時に、又至難の事業でもある。一方、第二工學部として、學生の教育に遺憾なきを期する任務と、研究所の使命達成との、二重の負擔を荷いつつ進む變遷期にあることを想えば、我々がこの 7 カ月の間に成し來つたところのものは、決して理想的とは言えない迄も、或る程度の効果を挙げたと言えると思う。

併し本來學者、教育者としての経歴を、長年月の間續けて來た教授、助教授の諸君を以て成る研究陣容であるから、實際問題の解決に乗り出すことを決意したとて、一朝一夕に變り得ないことも、又認めねばならない。

本年 3 月には學部の 3 年生が卒業し、4 月以降は新 3 年生のみの教育が残るのであつて、卒業研究の指導が教育活動の中心となるから、研究所としての活動も、昨年に倍して活潑となることは期待し得る。この新しい事情の變化を眞に有効に活用することが要望せられるのである。大事は一朝にして成らず、隱忍持久不撓の精神を堅持して一步一步その目標に近づく外ない。我々の研究所もその心持を持ち續けることによつて成果を挙げ得るであらう。

「生産研究」の讀者諸君には、誌上で我々の活動狀況を知つて貰うより外には、適當な方法はないのであるが、「生産研究」は我々素人の編集によるために隔靴搔痒の感がないでもない。或は又眞實を伝えることにおいて尙未だ不十分な點も多いと思う。併し漸を追うて改善して行つて、同學同好の士を以て我が國の當面する經濟再建の急務を達成し、進んでは東亞、更に大きくしては世界人類の福祉増進に貢献することが可能であると信ずる。これを目標として新しい年における新しい構想の源泉となることを念願するものである。(1950・1・1)

第 2 卷

1 月 號 目 次

第 1 號

口 繪	ビルの引越し.....小野 薫...18
論 說	開所式風景、都市復興プロフィール、開所式展示品の一部
年 頭 の 辭.....瀬藤 象二... 5	速 報
總 合 成 果	パン食の改善.....友田 宜孝...15
戰災ビルの更生.....岡本 舜三... 6	1. 拱橋 (アーチ) の側方に對する安定について (岡本) 19;
調 査	2. アミン・アミドのカルボニル反應の吸収スペクトル (藤森) 21;
熱線測定とその應用.....江口 雅彦...10	3. 時間おくれある制御問題の解析 (増淵) 27;
研 究	4. 時間おくれある自動制御 (松本) 27;
微風速の測定.....勝田 高司...16	5. 水晶共振子副共振檢出用發振器 (高木・尾上・佐下橋) 31;
薄板と針金の曲げ試験.....池田 健...20	6. 水晶共振子 1 個を用いた狭帯域濾波器 (高木・尾上) 32;
鐵鋼製鍊とスラッグ.....松下 幸雄...22	技 術 史 ノ ー ト
講 座	建築物の運搬法の發達.....生産技術史研究室...34
金屬材料の切削加工性試験法.....竹中 規雄...26	生 研 ニ ュ ー ス.....35
實 驗 ノ ー ト	質 疑 應 答.....35
金屬板試料の横振動.....鳥飼 安生...28	編 集 後 記.....36
トピック	
苦汁から除草劑の製造.....野崎 弘... 9	